

第1学年 算数科学習指導案

日時 令和5年10月6日(金) 5校時

児童 30名

指導者 内館 玲 松館 千佳子(支援員)

1 単元名 たし算

2 単元の目標と評価規準

〈単元の目標〉		
(1) 加法が用いられる場面を式に表したり,式を読み取ったりすることができ,1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。 (2) 数量の関係に着目し,計算の意味や計算の仕方を考えたり,日常生活に生かしたりしている。 (3) 数や式に親しみ,算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①合併や増加など,加法が用いられる場面を式に表したり,式を読み取ったりすることができる。 ②1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。	①ある場面が加法を用いることができるかどうかを,数量の関係に着目して,具体物や図などを用いて考えている。 ②日常生活の問題を加法を活用して解決している。 ③和が10より大きい数になる加法について,「10とあと幾つ」という数の見方を用いて,計算の仕方を考えている。	①加法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②加法の場面を身の回りから見付け,加法を用いようとしている。 ③学習したことをもとに,和が10より大きい数になる加法の計算の仕方を考えようとしている。

3 単元指導計画(全11時間)

○指導に生かす評価 ◎総括の資料にするために記録に残す評価

時間	目標	引き出したい,共有したいキーワード	主な評価規準		
	●どのような数学的な見方・考え方を働かせ ◆どのような数学的な活動を通して ■どのような資質・能力を育てるのか		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 9+4 のけいさん					
1	●「たし算の答えが10をこえる」という見方に着目し, ◆具体物やブロックを操作する活動を通して, ■10のまとまりをつくり,10といくつにする方法を考えることができる。	・あわせて ・こたえが10をこえる ・10のまとまり ・10といくつ	○ ① ブロック ノート	○ ①③ ブロック 発言 ノート	○ ①② 観察 ブロック
2	●前時に学んだ「分解して10といくつにする」という見方・考え方を働かせ, ◆ブロック操作をしたり,さくらんぼ計算で計算の仕方を表したりする活動を通して, ■答えが10をこえるたし算の計算を説明することができる。	・10のまとまり ・後ろの数をわける ・◎はあと△つで10 ・○を△と□にわける ・◎に△をたして10 ・10といくつ			
3	●前時まで学んだ「加数を分解して10といくつにする」という考え方を働かせ, ◆ブロック操作をしたり,さくらんぼ計算をしたりする活動を通して, ■加数を分解して計算する方法を説明することができる。	・◎はあと△つで10 ・○を△と□にわける ・◎に△をたして10 ・10といくつ			○ ③ ブロック ノート

4	●前時までに学んだ「加数を分解して10といくつにする」という見方・考え方を働かせ、 ◆さくらんぼ計算で適応問題を解く活動を通して、 ■加数を分解して計算することができる。		○ ①② 観察 ノート		◎ ① 観察
② 3+9 のけいさん					
5 本時	●「被加数を分解して10のまとまりをつくる」という見方に着目し、 ◆具体物やブロックを操作したり、さくらんぼ計算をしたりする活動を通して、 ■被加数を分解してたし算をする方法を考えることができる。	・前の数をわける ・○はあと△つで10 ・◎を△と□にわける ・○に△をたして10 ・10といくつ		◎ ③ ブロック 発言 ノート	○ ③ 観察 ブロック ノート
6	●前時までに学んだ「どちらかの数を分解して10といくつにする」という見方・考え方を働かせ、 ◆問題場面を把握して計算する活動を通して、 ■被加数または加数のどちらかを分解する方法を選択して計算することができる。	・どちらをわける	○ ①② 観察 ノート		
③ かあどれんしゅう					
7 8 9	●本単元で身に付けた見方・考え方を働かせ、 ◆問題を出し合ったり、カードの並べ方の決まりを見付けたりする活動を通して、 ■1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算の力を伸ばし、関数的な見方の素地を身に付けることができる。	・本単元で学んだ ことの全て	◎ ② 観察 ノート	◎ ② 観察 ノート	
④ まとめ					
10	これまでの学習を生かし、適応問題を解くことができる。	・本単元で学んだ ことの全て	◎ ① 観察 ノート	◎ ③ 観察 ノート	◎ ②③ 観察 振り返り
11			◎ ①② テスト	◎ ①③ テスト	

4 本時の指導

(1) 研究としてめざす児童の姿

自力解決や友達との交流を通して効率的な計算のしかたを考え、具体物やブロックを操作しながら計算の方法を説明することができる子ども

(2) 研究内容との関わり

研究内容1



- ・具体物やブロックを操作しながら、友達との対話を通して計算の仕方について自分の考えを広めたり深めたりする。(他者との対話)
- ・具体物やブロック操作、さくらんぼ計算を通して、気付いたことや自分の考えを学習シートに書く。(自己との対話)

研究内容2

- ・「10のまとまりをつくる」「10といくつにする」活動を中心に据えた単元構成とした。(目標設定)
- ・具体物やブロックを操作しながら、計算の仕方を説明することができた児童をB評価とする。

(評価方法の明確化)

(5) 展開

段階	学習活動（○主な発問・予想される児童の反応）	◎研究の視点 留意点(・)評価(□)
つかむ・みとのおす 5分	<p>1 問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">たまごは あわせて なんこですか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・3+9 ○9+4や8+3とちがうところがありますか。 ・大きい数が後ろにきている。 ・前の数より、後ろの数の方が大きい。 <p>2 課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">3+9のけいさんのしかたをかながえよう。</div> <p>3 解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまごを動かす。 ・ブロックで考える。 ・さくらんぼ計算をする。 ・10といくつで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの式との違いを確認し、加数が大きい場合とは違うことに目を向けさせるようにする。
ふかめる 30分	<p>4 課題を解決する。</p> <p>(1) 具体物やブロック、さくらんぼ計算など、自分で方法を選択し、計算の仕方を考える。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px 0;">   <div style="text-align: center;"> $3 + 9 = 12$ $\begin{array}{r} \wedge \\ 2 \quad 1 \end{array}$ </div> </div> <p>(2) 自分で選んだ方法を用いて、計算の仕方をペアで説明しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3を2と1にわけて、9と1で10にする。10と2で12。 ・前の数をわけて、後ろの数を10のまとまりにする。 ・9を7と2にわけて、3と7で10にする。10と2で12。 ・今まで通り、後ろの数をわけて、前の数を10のまとまりにする。 <p>(3) 計算の仕方を全体で確認し、異同点を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3をわけて動かした方が、楽に動かせる。 ・9をわけて動かすと大変だけど、答えは同じになる。 ・どちらも数をわけて10のまとまりをつくらしている。 ・どちらも、さくらんぼ計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物(たまご・ブロック)を用意しておき、具体物、ブロック、さくらんぼ計算の中から選択できるようにしておき、個々で学びを深められるようにする。 ・1つの方法を試したら、別の方法でも試してよいことを伝え、意欲的に課題解決できるように促していく。 ・どのように計算をしたか、活動を動画で撮り、(3)での活動で共有する際に活用する。 ◎具体物やブロック操作、さくらんぼ計算を通して、気付いたことや自分の考えを学習シートに書く。(自己との対話) ◎具体物やブロックを操作しながら、友達との対話を通して計算の仕方について自分の考えを広めたり深めたりする。(他者との対話) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">態(観察・ブロック・ノート)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を見たり、書画カメラや実際に黒板で操作したりしながら、考えを共有させる。どちらの考えも、ブロック操作を行うことで、操作の多少に気付くよう促していく。

	<p>5 学習をまとめる。</p> <p>○3+9のけいさんは、どのようにすればよかったですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どちらかのかずを10にして、10といくつでかんがえると、けいさんができる。</p> </div>	<p>・どちらの方法でも答えが出ることを確認し、自分が計算しやすい方法を選択してよいことを伝える。</p>
<p>ふ り か え る 10 分</p>	<p>6 適用問題に取り組む。</p> <p>3+8(教科書 P.66 10⑥)をペアで説明し合う。</p> <p>□はあと□つで10</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習がわかったか、タブレットで答えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10といくつでかんがえることができた。 ・おともだちのかんがえがわかった。 ・4+9は、□を10にしてかんがえたい。 	<p>・話し始めの言葉だけ提示し、続きを自分で思考して友達に伝える問題にする。</p> <p>・記述ができそうな児童には、ノートへの記入を促す。</p> <p>・自分で説明することが難しい児童には、穴埋め形式のヒントシートを用意しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>思(観察・ノート・シート)</p> </div> <p>・わかった、できたの内容については、◎○△の選択で答えさせる。</p> <p>・どちらの数を10とするかを4と9の選択式にし、より効率的に計算できるほうを選び取れるかを見取る。その後、5+6ならどうするかを問いかけ、加数と被加数の大小の違いがあまりない時の計算方法を考えさせることで、次時への意欲付けを行う。</p>